

一般質問通告書

令和4年 北秋田市議会 12月定例会

順位	1-1	質問者	3	虻川 敬	(新創会)	出席を要求する理事者	市 長
質 問 事 項 及 び 要 旨						理 事 者 の 答 弁	
1. 市内企業・市内経済の活性化について ①コロナ禍における支援について 1) コロナ感染したり、家族に感染者がある等余儀なく仕事ができない労働者がある場合、企業は事業を自粛するか、あるいは既存労働者に過重な業務を負わせる可能性があります。 いずれにせよ、企業側は生産力が欠落するか過重業務を強いることにより労働力の超過料金が発生しリスクが蓄積するわけです。このような実情を補完する補助事業は国にも県にも見受けられません。市の政策として労働力補完に対する補助事業、また余儀なく休業せざるを得ない場合に対しての支援事業等は考えられないか。 2) コロナ禍の影響により、また、エネルギーをはじめとする、様々な資材、原材料等の高騰により企業は依然厳しい経営状態が続いております。農業や、宿泊業、運送業などには支援事業がありますが商工業者には手薄に感じます。民間サービスの衰退は市民の生活の利便性の後退につながるので支援が必要と考えるが今後支援の検討をすべきではないか。 3) 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策室では市内経済の情報収集並びに経済政策の立案、実際の対策を実施するに当たり業務にあたる人員に不足はないか。また、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策室では、現在どのような業務を行っているか。 ②地域の経済循環について 1) 県内外を見渡すと、経済循環の下支えとしてプレミアム付き商品券事業の実施や、電子決済を利用する際に自治体が使用額の何パーセントかを補てんすることによる経済循環促進事業。地域通貨を発行し経済の活性化を図ろうとしている自治体など様々、精力的に経済支援にあたっている自治体が見受けられます。当局では、そのような他自治体の事業を把握しているか。また、どのように情報収集にあたっているか。							

- 2) 当市でも経済循環に対しての支援事業を積極的に行うべきではないか。

③市内企業が抱える労働力不足の問題について

- 1) 市内企業では働き手不足のため円滑に事業にあたれない事業所がいくつもあります。人的資源を確保するためにできる施策はないか。
- 2) 労働力確保に要するコストに対しての補助事業は考えられないか。

④消費人口の拡大について

- 1) 人口減少の中でも消費を獲得されなければ企業は継続経営できません。消費人口を上げるためには外部から消費者を増加させなければなりません。このことに対し現在、市ができることはどのような取り組みがあるか。
- 2) 空港・縄文遺跡・観光・経済を融合していくことが波及効果を生み経済の活性化に繋がります。現在はこれらがうまくかみあっていないように見受けられます。市当局では今、北秋田市に足りないものは何ととらえているか。
- 3) 消費人口増に直結するであろう空港の3便化定着に向け、根本的な利用促進に繋がる様な観光に関連付けた事業は考えられないか。

⑤道の駅たかのす建設計画について

- 1) 現在の進捗状況は前進していないように見受けられます。その原因は。
- 2) 道の駅たかのすの建設事業に対し財源根拠が示されていません。どのような財源を想定しているかを伺います。
- 3) 9月議会で答弁頂いた、現在、運営方法について協議を重ねている関係各所とはどこを指すか。また運営方法を決定する時期をいつ頃ととらえているか。

2. 行政サービスの拡充について

①交通弱者に対応した行政サービス環境について

- 1) 移動式行政カーを用意し行政の出張サービスを検討してはいかがか。

3. デジタルトランスフォーメーションについて

①デジタルトランスフォーメーションについて

- 1) 現在の当市のデジタルトランスフォーメーションについての取り組みは。
- 2) 各部署間での情報共有に対しどのような変革がなされたか。また、今後なされるか。

- 3) 専門的スキルが必要であり、調整作業が多いと聞きます。
今後の市の業務全体の合理化を図るべくデジタルトランスフォーメーション課を設立してはいかがか。

4. 伊勢堂岱遺跡について

①今年度の伊勢堂岱遺跡関連事業について

- 1) 世界遺産推進係に従事する職員の職務内容と人員構成はどうなっているか。
- 2) 伊勢堂岱遺跡関連事業を所管する部署はどのようなになっているか。世界遺産推進係と商工観光課とでどのような仕事の割り振りになっており、どのように連携を取っているか。
- 3) 今年度実施した伊勢堂岱遺跡に関連する事業の評価は。